

医療従事者が誇りを持って働ける持続可能な地域医療

医療従事者へのアンケートで「日常勤務において課題に感じていること」を尋ねたところ、人手不足や教育・研修などの機会が少ないなどの意見がありました。こうした医療従事者の不安を解消できるように、市内の関係機関と連携し、医療従事者の確保や能力開発・育成に向けた取り組みを進めています。

市内医療従事者が課題に感じていること

1. 人手が不足している (80%)
2. 後継者が不足している (34%)
3. 教育・研修などの機会が少ない (19%) など

※市内医療従事者 507 人からの回答(2017 年)

医療従事者の確保・定着のために

若い世代が地域医療に興味を持つ

きっかけづくり

高梁高校の地域学習の一環で、市内に勤務する医療従事者から地域医療の実情や地元で働くことへの思いを聞く機会を設けています。地元で働く医療従事者の生の声を聞くことで、生徒たちの郷土愛を育み、将来の職業として医療従事者が選択肢の一つとなるように継続して取り組んでいます。



地域医療の現状を市内医療従事者から学ぶ

地域全体で連携した看護職のスキルアップ

高梁医師会を拠点に活動している「高梁かごねっと」では、市内で働く看護師を対象とした研修会を開催しています。リーダー育成研修や新入職員研修など、その時々で必要とされているテーマを市内病院の看護部長と話し合い、毎年10回程度研修会を開催しています。



市内大学で行われたスキルアップ研修の様子

普段はできない
病院内のリハビリ
器具の体験



看護学生への病院見学ツアー

市内の医療機関を知ってもらうため、毎年春に看護学生を対象とした見学ツアーを実施しています。ツアーでは各医療機関の概要説明のほか、ヘリポートやリハビリ専用施設など普段は入ることができない施設内部の見学などができます。また、ツアーを通して一人でも多くの看護学生が市内医療機関への就職を考えるきっかけとなるように取り組んでいます。